

# 令和元年度浜松市社会福祉審議会

## 第1回高齢者福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和元年6月18日（火）午後2時30分から午後3時10分
- 2 開催場所 浜松市役所本館3階 32会議室
- 3 出席状況 委員（10名）  
藤田 正治（浜松市自治会連合会 理事）  
渥美 みつ（浜松市老人クラブ連合会 副会長 女性部浜北地区代表）  
鈴木 雅教（浜松市ボランティア連絡協議会 会長）  
小栗 康義（社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 常務理事）  
鈴木 幸子（浜松市民生委児童委員協議会 理事）  
小杉山 敬（浜松市社会福祉施設協議会 理事）  
藤島 百合子（一般社団法人浜松市医師会 理事）  
沖村 宏美（公益社団法人 静岡県看護協会 西部地区支部役員）  
酒井 昌子（聖隷クリストファー大学 教授）  
稲葉 大輔（浜松市議会）
- 事務局（10名）  
高齢者福祉課 小池参事兼課長 渡辺担当課長 亀田課長補佐  
鈴木G長 木谷G長 門屋G長 中澤G長  
健康医療課 山中次長兼課長  
介護保険課 市川課長  
健康増進課 平野課長補佐
- 4 傍聴者 0名
- 5 議事内容 (1) やらまいか型人生年齢区分について（報告案件）
- 6 会議録作成者 高齢者福祉課 生きがい・長寿政策グループ 中澤
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
録音の有無 有・無

## 8 会議記録

### 1 開会

(事務局)

今回、個人情報に含まれていないが、議事(1)については政策形成の過程につき非公開とするのが適切と考えるので、当初は公開で行い、議事(1)については非公開とさせていただきたいと思うが、皆さんからの御了解をいただきたい。

(異議なし)

### 2 委員の紹介

事務局から委員の紹介

### 3 専門分科会会長の選出

小杉山敬委員を会長として選出

### 4 会長挨拶

### 5 会長職務代理者の指名

酒井昌子委員を会長職務代理者として選出

### 6 議事

(小杉山会長)

議事の公開非公開について、今回、個人情報は含まれていないが、高齢者福祉施策の形成過程のことであるので、冒頭で承認をいただいたとおり非公開とします。

(異議なし)

### **(1) やらまいか型人生年齢区分について（報告案件）【非公開】**

(小杉山会長)

(1)のやらまいか型人生年齢区分（報告案件）について、事務局から説明願いたい。

(小池健康福祉部参事兼高齢者福祉課長)

資料に基づき説明

(小杉山会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(小栗委員)

5月31日の市議会厚生保健委員会、6月上旬の「70歳現役都市・浜松」推進協議会ではおおむね了承をいただいたということでしょうか。

(小池健康福祉部参事兼高齢者福祉課長)

市議会厚生保健委員会では、おおむね了承をいただいた。ただし、枠に当てはめることなく、これを強要するようなことのないよう取り扱いについては注意をするようにとの意見をいただいた。また、「70歳現役都市・浜松」推進協議会では全委員から「承認します」との意見をいただいている。

(小栗委員)

承認されているということは、ここであまり議論をしても修正するという事はないということでしょうか。

(小池健康福祉部参事兼高齢者福祉課長)

報告案件ということで、この場では報告という形になる。

(鈴木雅教委員)

高齢者福祉専門分科会ではたくさん意見が出ていたが、私はおおむね了承をしたが、他の委員の皆さんの了承を得られるか心配。

(小杉山会長)

昨年度から引き続きの委員の皆さんはいかがか。

(鈴木雅教委員)

平均寿命は男性が約 81 歳という、「いきいき充実世代」を 87 歳までもっていき、88 歳以上を「かがやく悠久世代」とするのがはたして良いのかどうか。平均寿命以上に設定するのはどうなのか。前回の分科会では、自分の年齢が「ますます現役世代」というのは酷であると意見を述べ、「まだまだ現役世代」に替わったから少しはいいと思ったが、市が公表したときに市民がどう思うかを心配する。

今後の活用についても、就職のことで企業向け高齢者雇用促進セミナーや高齢者向け就労支援セミナーとあるが、現実的には新聞などで仕事の募集を見たときに介護職員などはあるが 65 歳以上では事務職的な仕事は高齢者にはほとんどない。飲食産業ではたくさん募集をしているが 65 歳以上はほとんどやれる仕事はない。そうしてみると、74 歳までまだまだ現役世代とするのはどうしてもひっかかる。

(藤田委員)

「70 歳現役都市・浜松」推進協議会にも出席したが、「やらまいか」にこだわりすぎているのではないか。現役世代というのは 65～74 歳、これは職場に限って言っているのではなく、地域ボランティアや地域の活動などの面で地域から頼られることであり、いいと思う。説明にある「まだまだ職場」というのは、町工場の人たちは後継者がいないために一生懸命働いているのが実態としてあるから、地域から活躍できる場があるんだということを強調したほうがいい。職場や地域から頼られるというよりは活躍する場があるということである。また、80 歳をこえると個人の能力が限られてくるから、88 歳から永遠に輝くというのは現実的ではない。浜松の現役都市を宣言するにあたり、70 歳前後を強調することだと思う。

(小池健康福祉部参事兼高齢者福祉課長)

現実的ではないことは理解しているが、健康寿命について、現在少しずつでも延ばしていかないといけないという考えもある。特に 65～74 歳のところの現役世代という言葉は、70 歳現役都市宣言の中にあるのが、人口減少時代に向かっており、これまでのように若い世代が高齢の方を支えるということが現実的に難しくなってくる中で、この年代の方たちに支えていただきたいという思いがある。それによって、各企業が 70 歳までの方の雇用の創出、拡大、定年延長を進めていくということで、商工会議所を含めた共同宣言となっている。また、地域においては、地域

活動で活躍していただくことで健康寿命の延伸、地域活動を支えていただきたいという考えもあり、ここについては「職場や地域から頼られる世代」と表現を替えさせていただいた。

先ほど鈴木委員から話があったが、特に技術系の職種については、若い世代の方に補足するという形で高齢者の方の力をお貸しいただきたいという思いでの表現とさせていただいた。

88歳で輝いていけないというご意見をいただいたが、動き回るということではなく、存在自体が輝き、いつまでも笑顔でいていただけたらという期待を込めての表現とさせていただいている。

(鈴木幸子委員)

年齢区分を見たとき、成長しているとき、現役のとき、充実のときというふうに年齢区分されているのはすっかり入ってきたが、88歳からの「かがやく悠久世代」だけそぐわないと感じた。それと、「まだまだ現役世代」は65～74歳であるが、64歳以下の人たちに頼られるという言葉は良くない。期待される世代としたほうが合うと思う。

(小池健康福祉部参事兼高齢者福祉課長)

期待されるという意味の中には活躍いただくとか頼られるという意味も含まれている。前回の分科会での、ますます働き盛り、現役で活躍するところ酷だという意見に対し、どうすれば和らげることができるかということを考え選んだ言葉ではあるが、先ほど藤田委員からの発言にもあったように、活躍するという意味も含まれているので、今後活用するにあたり、単に頼られるだけではなく、活躍も期待されるということも言葉も添えて周知していきたい。

(渥美委員)

私も81歳になる。老人クラブも平均年齢が80.18歳になる。70代の人たちがなかなか入ってくれない。いきいき充実世代は75～87歳とあるが、80を過ぎると気持ちは変わらなくても体がついていかない。自分らしくいきいきと過ごせばいいわけだが、年齢区分がはっきり区切られてあると、87歳の人88歳になった時にどのように思うか心配。88歳くらいとか、ぼやかした形でもよいのではないか。そとと、永遠に輝くという、永遠にという言葉の解釈だと思うが、いつ死なせてくれるんだというふうに思ってしまう。

(鈴木雅教委員)

不謹慎ではあるが、永遠を「とわ」と読み取れ、とわに輝くという解釈にもなり、88歳になったらそっちにどうぞ、というふうに取りられてしまいかねない。

(藤田委員)

永遠に輝くという言葉自体は個人で違う。個人に見合った表現がよい。

(沖村委員)

私は50代だが、このような年齢区分が出たときに、私たちはいったいいつまで働けばいいのかとってしまう。私が就職したときは55歳が定年だった。それが60歳になり、現在65歳になりつつある。いつまで現役で頑張ればいいのかと不安に

なる。また、職種が限られてくるというのはあると思う。私も病院に勤務しているが、例えば看護職であれば60を過ぎると老眼で点滴を刺すことが難しい。医療関係でこの年代まで働くのは難しい。訪問看護であれば利用者の体を動かす体力もなくなる。65歳を過ぎたらどこで働けばいいのかという不安がある。今の高齢者も不安であると思うが、50代も不安である。

88歳はキーワードの歳である。救急医療に居ると88歳で運ばれることが非常に多い。治療によって障害が残る人もいれば亡くなる人もいる。88歳からまだ続くとなると、自分らしく生きていくということはわかるが、求められてしまうとしんどい世代であるので、輝いて生活を送るといった意味がどういう意味なのかを注釈を入れて公表するのがよいと思う。

(藤田委員)

ある規範にはめ込むのはよくない。前回の分科会で意見が出たように、65～74歳をますます働き盛り、現役で活躍貢献する世代というのは抵抗がある。いろんな分野で元気にはつらつと過ごすという社会を目指す、それによって健康寿命も延び、心身ともに健康であるというのが一番のポイントである。

国や県など上から方針を下ろすというやり方は反発を招くもとであり、市民目線で出していないといけない。

(小池健康福祉部参事兼高齢者福祉課長)

決して押し付けるものではなく、この年代の人はこうしてくださいというものではない。市議会厚生委員会でも枠にとらわれてこうしなくてはならないというニュアンスのことを伝えてはいけないという意見をいただいている。説明の中で一つの目安ということで決して義務付けではないということも触れた上で、年齢区分も目安ということで案内をしていきたい。

いつまで働かなければならないのかというふうに関心取られてしまう懸念については、職場でいつまで働かなければいけないということではなく、地域の中で頼られる年代でもあるということを説明していく。

(鈴木雅教委員)

定年を70歳まで延長したいということであれば、「まだまだ現役世代」を74歳までもっていきより、70歳で区切ったほうがよい。「いきいき充実世代」を80歳までにして「かがやく悠久世代」を80歳～にしたほうが年齢的に余裕が持てると思う。アルバイトの収入が入ってくることを考えたときに、翌年に税金が上がり大変になる。健康保険料も2割から3割になり負担が多くなる。サラリーマンをしているならいいが、年金は決められているので、その中でアルバイトをして多少余裕があった生活をしたとしても、辞めたときに翌年が大変である。辞めてもまだその分のために働かなければいけないと思うと、もう少し年齢区分を考えてもらいたい。年齢区分が年齢と言葉がマッチングしないということが最後まで納得がいかない。

(小杉山会長)

それぞれの立場からの貴重なご意見をいただいた。今回は報告事項という案件ではあるが、伝え方としては、様々なご意見を反映した伝え方はできると思う。これくらいの目標を置かないと成り立たない世の中であることは皆さんも感じている

と思うが、現実的には厳しいものがある。発表する内容として変えることは難しいとしても、伝え方として今のご意見を含めた形で伝えてもらえればありがたい。

以上で議事を終了する。

7 連絡事項

8 閉会